

原田 竜馬

は ら だ

り ょ う ま

活動報告レポート
Vol.6

令和5年度の支出が適切であったか認定をする決算特別委員会も開催された第3回定例会。衆議院解散総選挙が定例会の会期末に重なるというタイミングで、国での税制の議論は地方自治体の予算への影響も少なくありません。国政のダイナミックな話もちろん重要ですが、区民の皆さんにとって身近なのはやはり世田谷区の問題です。区政に関する情報をもっともっと知って貰えるように、伝える工夫をし続けることが大切だと感じています。



議会活動 ～第3回定例会、一般質問～

不登校児童生徒の孤立防止、最適な学びに向けての取組みについて

文部科学省の調査によると全国の小中学校の不登校児童生徒数は約30万人で、そのうち約12万人が学校内外の機関等で相談、指導を受けていないことが判明。区の調査でも学校を休んでいる間に悩みを誰にも相談しなかった小中学生が3割弱に上ることが判明しています。この調査結果を踏まえ、孤立している児童生徒数の把握と今後の対応について問いました。そして、孤立を防ぎ最適な学びを提供するには、区内フリースクールや居場所等、福祉機関との連携が重要であり、今後どのような体制を目指すのか問いました。また、国は不登校児童生徒が学校外の機関や自宅等で行う学習成果を成績に反映できると法令改正を行いました。フリースクールなどとの連携を強化し、成績への反映を積極的に行うべきだと提案しました。

区答弁▶ 区の不登校児童生徒は約1500人おり相談支援に至っていない事例もあることが報告されました。教育委員会と学校の連携、不登校支援チームによるアウトリーチ等で全員を相談・支援に繋げていくとのことです。そして、福祉と教育の連携については、文部科学省等が計画する事業の活用も見据え、保健福祉領域と学校、教育委員会とが連携し必要な支援が届く取組みを検討・実施するとの回答がありました。また、学校外での学びの成績反映については、本人や保護者の意向を確認しながら、民間団体との連携を行い、適切に評価するよう学校に周知する方針です。



起立性調節障害に対する理解促進と支援

不登校児童生徒の約3～4割が起立性調節障害を抱えているとされています。他自治体では、起立性調節障害に対する理解、周知のためのリーフレットを作成しており、区としても同様のリーフレット作成や研修を行うべきだと問いました。そして「ほっとルームせたがYah!オンライン」の開設時間を延長することも検討すべきだと提案をしました。

区答弁▶ 起立性調整障害を抱える児童生徒がいることを認識しており、教員向けに医療専門家の講義を開催したり、保護者の理解を広げる方法を検討していくとのことです。また、ほっとルームせたがYah!オンラインの開設時間については、ニーズや費用などを総合的に検討し、対応していくとのことです。

街路樹の持つ多彩な効果を最大限生かす取組みについて

世界的に樹幹被覆率を高める動きがあり、区として街路樹等が持つ「グリーンインフラ」をはじめ、多彩な効果を最大化させるため、高木の樹冠被覆率を指標として導入すべきと提案しました。そして、豊かな樹木の生育や人の安全のためにも客土量の確保、新たな土壌や工法による根上がり防止対策を行うべきだと提案しました。また、豊かな緑の創出のためには区民の皆様の理解も必要です。アイツリー・エコの活用をはじめ、貨幣的価値も含めた樹木の持つ価値の見える化を行い、街路樹に対する理解を促進すべきだと提案しました。更に地域に適した剪定を実施するために、造園職の配置や職員研修の強化を求めました。

区答弁▶ 樹冠被覆率については、樹木地に高さデータを掛け合わせて高木の分布状況を把握するなど、調査分析手法を検討することです。また、根上がり防止対策は、先進的な技術や整備事例など

の調査研究を行っていくとの回答がありました。樹木の価値の見え
る化については、アイツリー・エコを含めた様々な手法を研究し、区
民の皆様に緑の価値を分かりやすく伝えられるよう検討するとのこ
とです。研修強化等については、造園に関わる職員の研修等による
職員の技術向上や継承を行い、事業者とも技術の共有を図るなどの
工夫と連携を行うとのことです。

起立性調整障害とは？

起立性調整障害は、自律神経の働きが悪くなり、朝なかなか起きられない、倦怠感、頭痛、立ちくらみなどの症状が現れる疾患です。症状は午前中に強く、午後から体調が回復することが多いのが特徴で、有病率は小学生の約5%、中学生の約10%といわれています。

樹冠被覆率とは？

気候変動や生物多様性の観点から国際的に重視される都市緑化の評価基準で、高木の樹冠が覆う面積の割合のことです。

議会活動 ～決算特別委員会での主な質問～

企画総務領域

- 区内外の高額所得者に対して戦略を持って、ふるさと納税対策を！
- 区内大学にふるさと納税制度が活用できる仕組み作りを！
- 「フューチャーデザイン」による区政運営の実施を！
- 審議会等の若者の割合が低い。積極的な登用、若者枠を創設を！
- 区基本計画では「子ども・若者を中心に据えた区政運営の実現を！

区民生活領域

- フードシェアリングサービスを活用した、更なる食品ロスの削減を！
- ゆるスポーツの導入で更なるスポーツ促進を！
- エネルギー貧困について区の問題認識について
- 区の省エネ対策による、省エネ格差の助長解消を！
- 高所得世帯だけでなく世帯が利用しやすい省エネ対策の実現を！

9月-10月 議員としての様々な活動



column

審議会等の若者の割合はどれくらい少ないの!?

審議会とは、法律又は条例に基づいて、審査、諮問、審議又は調査等を行うために、附属機関として設置された合議制の機関です。委員は、学識経験者や区民公募委員が担います。若者(30代以下)の割合は、558人中9人と約1.7%(10月1日時点)と、世田谷区附属機関の設置運営に関する要綱第4条2項に「公正を確保し得る委員構成とし、各年代層からの選任に配慮する」としていますが、全く配慮されていない現状です。私の質問で明らかになった数字ですが、若い人たちの声、多様な立場の方の声が反映されるよう取組みます！

30代以下

9人(1.7%)

9/558人
(10月1日時点)



LINE QR



HP QR

議員になり1年半、街の問題からプライベートなお困りごとまでお声をいただきました。
「こんなこと相談してもいいの?」といったことでも、実はお役に立てることが多くあります。
お気軽にご連絡下さい!
(区政についても発信しています!ぜひご登録ください!)

プロフィール

- 1996年9月23日、28歳、世田谷区代沢在住
- 淡島幼稚園、代沢小学校、富士中学校、駒澤大学高等学校、駒澤大学文学部社会科学科卒
- 野球チーム所属歴:CCペガサス、上馬シニア野球クラブ、中学・高等学校野球部
- 大学卒業後は、公共政策系コンサルティング会社を経て衆議院議員落合貴之の公設秘書を務める。
- 2023年、世田谷区議会議員選挙で最年少の26歳での当選
- 所属会派:立憲民主党・れいわ新選組世田谷区議団
- 所属委員会:福祉保健常任委員会、子ども・若者施策特別委員会